

新町政スタート

事務引継ぎを終了

新旧町長の事務引き継ぎが、2月12日、町長室で行われ、和やかな雰囲気の中で、書類に署名・捺印をし引き継ぎを終了しました。

森前町長は、昭和4年より通算46年間、地方公務員として奉職、この間行

財政運営に尽力、数多くの輝かしい業績を残され、この度、2月12日をもって任期満了勇退され長い役場生活に終止符を打たれました。長い間ご苦労さまでした。

一方、後任の浅妻新町長は、昭和26

年村議会議員に初当選、以来4期と2年、この間総務文教委員長などを歴任、昭和45年収入役に、49年には助役に就任、この間の長い行政経験を生かした。新しい町政がスタートすることになり

就任のあいさつ

新町長 浅妻茂一郎

二月二日、森町長より事務引き継ぎを受け、翌三日町制施行後三代目の黒崎町長に就任いたしました。誠に以って光栄これに過ぐるることなし感謝感激に堪えません。有難く厚くお礼申し上げます。

願ひて、前町長は一期(四年間)といえども過去四六年という半世紀にわたる長い行政体験を生かし、実に偉大な業績を成し遂げられました。対しまして私は浅学非才微力ではありますが、去る一月一六日告示三日投票日の選挙戦を通じて数多くの教訓を頂き今更なからその責務の重



事務引継ぎをする新旧町長

大なることを痛感致しました。もとより黒崎町は先人の歴代村長、町長の努力と住民の理解、協力の結果、村から町へと大きく躍進を続け、ここに七六年の歴史と良き伝統を築いて頂きました。

私は更にこの実績を踏まえて、後退することなく渾身の努力を致す覚悟であります。私に既に選挙公報にも掲載してありますように「公平無私」「対話の町政」「明るい将来に對しての確信」、この三原則を持って、これから変ぼうとする黒崎町を「清潔にして福祉のゆきとどいた町」「健康にして文化的な活力ある町」「豊かな明る

また、職員任命当時の昭和三十四年、世帯数二五九六、職員一七人と記憶し、今日では人口は約二倍の一万九千有余人、世帯は三倍に近い四六八九、職員数は二倍の二〇〇人という、大規模な町に進展してきています。同時に戦後の大きな町の変化として、昭和三年、現在の山田、善久を曾野木村(現新海市)から吸収合併、三五年役場庁舎の焼失翌年第二室戸台風による災害、三九年国民体育大会の重量挙げ会場

退任のあいさつ

前町長 森 清太郎

昭和四年一般事務職員を拝命以来三四年、続いて助役二期、町長一期、通算四六年、半世紀に近い年月、役場生活を送られて頂き、この間、皆さんの満足が得られる行政には程遠かったと今更ながら申し訳なく思っております。

しかし、一万九千住民の温かいご支援による町長一期の諸事業内容を申し上げさせて頂き、県立黒崎高校の誘致、立仏小学校、寺地保育所、屋外体育施設、ガスホルダーの新設、木場小学校、黒鳥小学校、大野保育所、善久公民館の改築、町道の改良舗装など、

略歴

町議会議員 四期二年一〇か月
農協理事、総務文教委員長、監査委員、黒崎地区農業研究協議会長
黒崎中学校PTA会長、巻農業高校黒崎分校PTA会長
(現黒崎高校) 町収入役、町助役

となり、数日後、新潟地震の大災禍に見舞れるなど、思い起せば数限りない事柄が走馬燈のように頭を駆けめぐります。

この半世紀に近い役場生活は、私の青春時代から壮・老年に至るまでの長い道程でした。この間微力ではありましたが誠心誠意を尽くし努力してきましたつもりです。

本町は今後ますます、急テンポの発展、変ぼうが予測されておりこれからも新町長、議会、住民が一体となり平和で清新はつらつとした息吹きを行政に注入され住民の福祉をより一層深いものにして頂きたいと思ひます。

今後は一住民として町の発展の様子を祈りながら見守っていきたくと思っております。ほんとうに長い間奉職させて頂き心よりお礼申し上げます。退任のあいさつと致します。

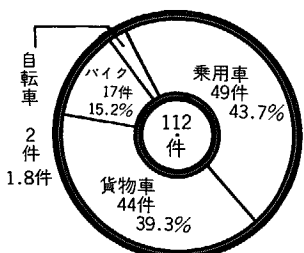
交通安全

キャンペーン

事故発生国県道から町道へ

町では過去二ヶ年連続して減少傾向にあった事故件数は、昨年(五一年)また三ヶ台の一・二一件、傷者一三四人、死者一人という悲しむべき数字となり、事故発生場所も国県道から町道へと移行してきております。この傾向は、国県

表われてきていることから、今まで市町村の道路行政の遅れが、今日ようやく整備され始め、国県道主体の車の流れが、混雑を避けるため、舗装された市町村道へと変化を見せ、本町においては、四九年一七件であったものが、昨年は四五件と大巾な増加を示しております。



この主な原因は、国県道に比較し、市町村道における安全施設整備の遅れが指摘されますが、しかし、事故類型別発生状況では、車対車が八七件全体の八〇%近くを占めており、中でも町道での多くは、出合頭の衝突、右左折時の側面衝突が大半です。そしてこの原因の多くは運転者の不注意が起因しておるものです。

今後、町道の舗装率も上り、走りやすい条件下になります。事故を起し、莫大な感謝料を請求されて泣くまでに、交通規則を守り正しい運転を心がけたいものです。

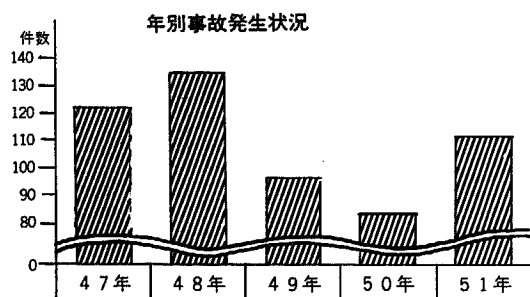
「歩行者優先」とは 正しいルールを身につけて実践して

事故は運転車側の責任だけでは済まされない例も多くあります。信号無視、車や物かげからの飛び出し、路上での遊びなどによる事故が町内でも発生しております。

どんな場所においても歩行者は優先的であって、車は歩行者のために除行、一時停止してくれると思っている人が多いようですが、「歩行者優先」とは、歩行者が正しい交通ルールを身につけて実践してはじめて歩行者が優先されるものです。事故の責任の大部分が歩行者側にあっても多くの場合、運転者側に責任があるものとして罰

せられる例が多く、運転車側にとってこれほど迷惑なことはいえませんが、歩行者側に相当な過失がある場合「過失相殺」として全補償額から歩行者の過失分を差引いた金額しか補償されないことがあります。

歩行者は運転者の身になって、運転者は歩行者の身になって、交通規則と同時に交通上のエチケットを守って道路を通行し、お互いが譲り合う気持ちをもって、悲惨な事故をなくすことができるのではないのでしょうか。



道路	47年	49年	51年
国	76件(62.3%)	57件(59.4%)	46件(41.1%)
県	29件(23.8%)	18件(18.7%)	18件(16.1%)
町	16件(13.1%)	17件(17.7%)	45件(40.2%)
その他	1件(0.8%)	4件(4.2%)	3件(2.6%)



日本一狭い30人が狭い木場の客に